



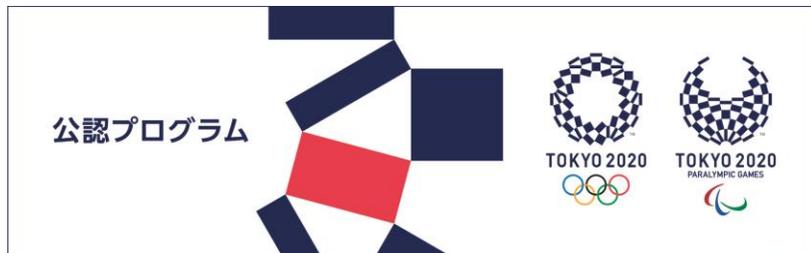
東京2020における現状の取組について

2017年12月18日

東京2020参画プログラム（東京2020文化オリンピック）の進捗 子供たちの参画（大会マスコット投票）

東京2020参画プログラム全国展開

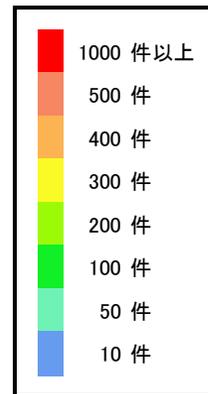
- ✓ イベント数: **2万** 件、参加人数: **750万** 人を突破 (12/1時点)
- ✓ アスリートのみならず、国民全員が文化や教育、持続可能性等、幅広い分野で、東京2020大会関連イベントに参画できる枠組み



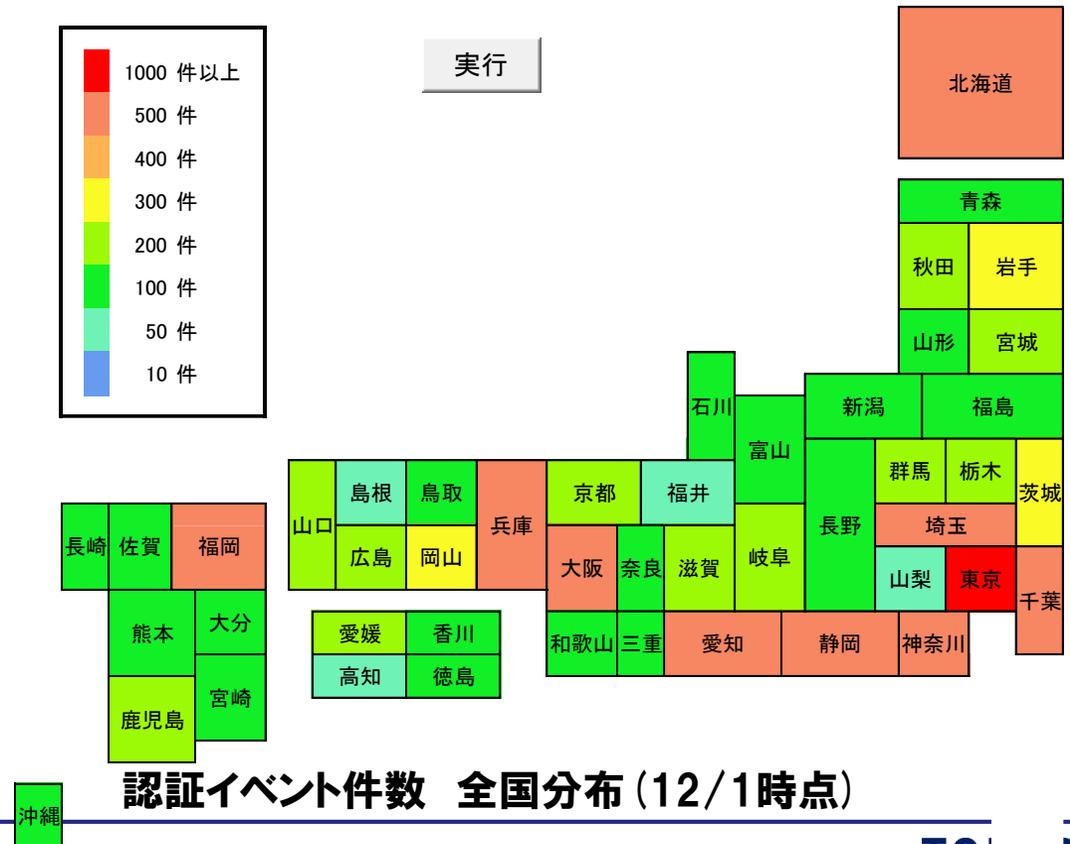
公認プログラムマーク



応援プログラムマーク



実行



認証イベント件数 全国分布 (12/1時点)

子供たちの参画：大会マスコット投票

過去大会にはなかった、史上初めて小学生が選ぶマスコット

12/7 大会マスコット 3候補案発表



12/11～2/22 全国の小学校等での学級での投票

2/28

投票結果発表

8月頃

正式発表予定

自治体の参画：マスコット投票宣言

✓ 全国の自治体による「マスコット投票宣言」を東京2020参画プログラムとして認証



「マスコット投票宣言」キックオフイベント
(青森県三沢市、東京都渋谷区、岡山県玉野市、福岡県北九州市)



私たちの自治体では、一校でも多くの学校にマスコット投票に参加してもらいたいとの考えから「マスコット投票宣言」を行いました。この宣言は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が実施する「東京2020参画プログラム」に承認されています。子供たちがオリンピック・パラリンピックについて学び、大会マスコットの候補の投票により決まるおなじく、全日本選手権の大会に決まったおなじみの顔であり、東京2020大会に投票する権利を行使できます。自治体でも東京2020大会に参加した人だ」といって喜びあふない喜び、この先も子供たちの心に残ることを願っています。



1000日前事業「1000 Days to Go！」の実施状況

東京2020オリンピックカウントダウンイベント 「みんなのTokyo 2020 1000 Days to Go!」

日時 2017年10月28日（土）14時30分から16時

場所 東京・日本橋中央通り

主催 東京2020組織委員会、東京都

出演者 アスリート：三宅宏実選手/ 入江陵介選手 /高藤直寿選手 / 寺本明日香選手
スペシャルゲスト：市川 海老蔵（2020文化・教育委員）

内容 ステージイベント（カウントダウン・デーカウンターお披露目等）、
初採用種目デモンストレーション、他事業連携（ラグビー等）、パートナー連携事業
※同日、JOCコンサート、日本橋シティドレッシングを連携して実施

来場者 約15,000人

取材 取材メディア数 55社 155人



オープニングを飾る山車の
練り歩き（地元町会）



カウントダウン・デーカウンター
のお披露目



アスリート、ゲストによる
初採用種目体験

東京2020パラリンピックカウントダウンイベント 「みんなのTokyo 2020 1000 Days to Go!」

日時 2017年11月29日（水）12時から20時

場所 東京スカイツリータウン®スカイアリーナ

主催 東京2020組織委員会、東京都

出演者 アスリート：一ノ瀬メイ選手 / 高桑早生選手 / 豊田まみ子選手 / 古澤拓也選手 / 正木健人選手
スペシャルゲスト：YOSHIKI

内容 「1000 Days to Go!」映像の上映、アスリートとYOSHIKIによるトークセッション、主催者・パートナー企業による競技体験会やブース展示、東京スカイツリー®のライトアップ等

来場者 約30,000人

取材 メディア数 64社 130人



セレモニー



東京スカイツリー®と
山車のフォトセッション



YOSHIKIさんとアスリート

東京2020参画プログラム 文化オリンピックナイト

日時 2017年11月26日(日) 18時30分から20時まで

場所 東京駅前 行幸通り

主催 東京2020組織委員会、文化オリンピックナイト実行委員会（構成団体：野村ホールディングス株式会社、全日本空輸株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、アサヒビール株式会社、JXTGエネルギー株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、セコム株式会社、アシックスジャパン株式会社、キッコーマン株式会社、KNT-CTホールディングス株式会社、三菱電機株式会社、一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン）

後援 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部、文化庁、復興庁、東京都

内容 MC:SHELLY(東京2020組織委員会 文化・教育委員)

Part1 TOKYO2020 DIALOGUE

➤ 東京2020 Nipponフェスティバルに向けてのトークセッション

【登壇者】市川海老蔵(東京2020組織委員会 文化・教育委員)、澤邊芳明(クリエイティブディレクター、東京2020組織委員会アドバイザー)、草刈民代(女優・東京2020組織委員会顧問)
【モデレーター】宮本亜門(演出家)

Part2 TOKYO2020 ALL JAPAN CONCERT

➤ 2020年に向けて、「ALL JAPAN」で取り組むことをコンセプトに、多様なアーティストとオーケストラが、高校生や子ども達とともに作り上げるコンサート

【企画・構成】宮本亜門
【出演】ゆず(ミュージシャン)、森谷真理(ソプラノ歌手)、宮本笑里(バイオリニスト)、鈴木瑛美子(ゴスペルシンガー)、MIYAVI(ミュージシャン)、大前光市(義足ダンサー)、上田秀一郎/はせみきた(太鼓：英哲風雲の会)、玉野祥太/三浦桜来(空手家ダンサー)
福島県立福島明成高等学校合唱部、宮城県石巻好文館高等学校音楽部、東京都立狛江高等学校ダンス部、インターナショナルスクールの子も達



東京2020 Nipponフェスティバルの検討状況

1.東京2020大会における各プログラムとの連携（イメージ）

2017年

2020年4月頃

7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる
大会に向けた機運醸成



東京2020 Nipponフェスティバル
の展開

- ・大会の盛り上げを最大化
- ・歴史に残るプロジェクト
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信

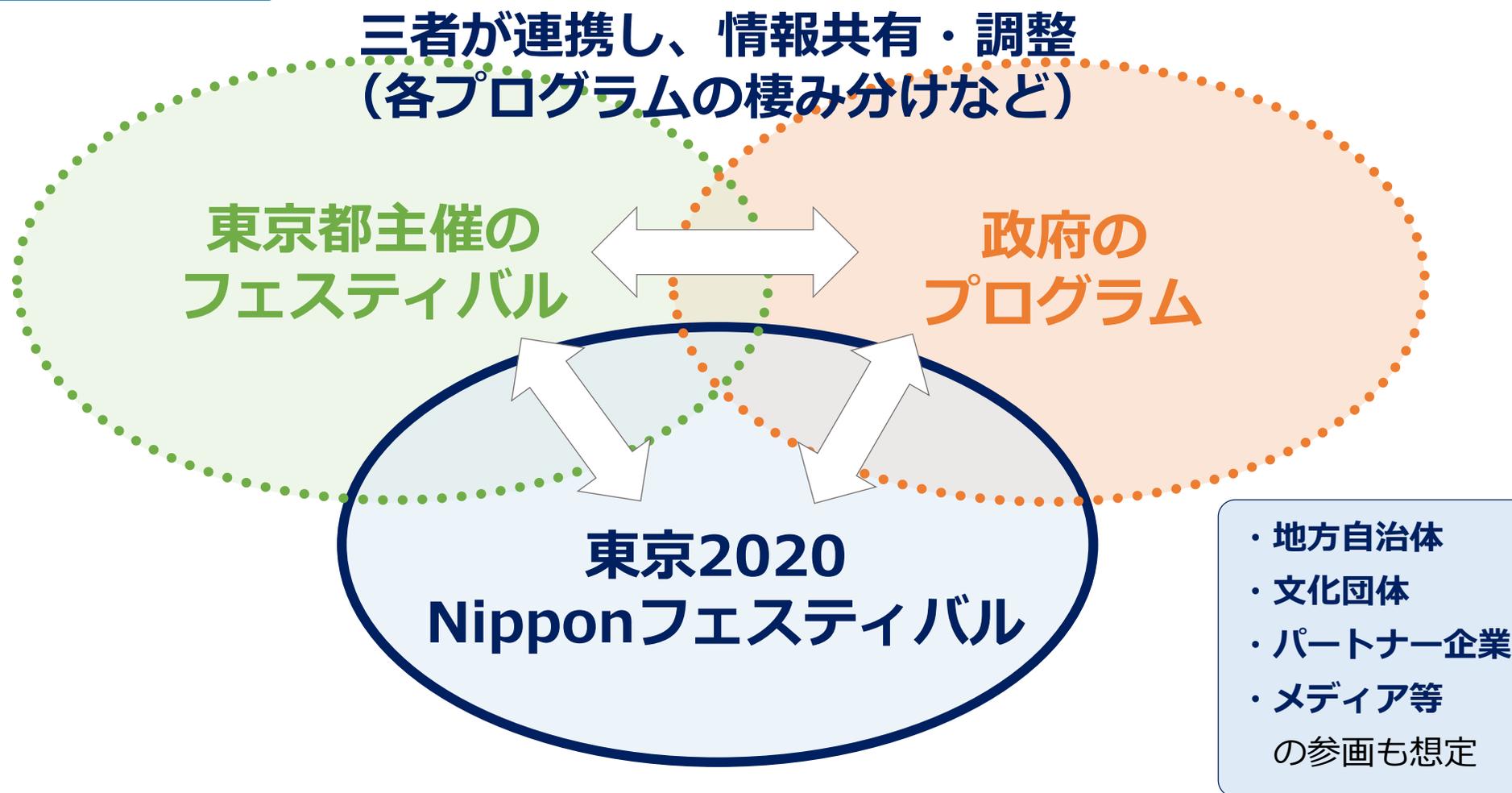


聖火リレー

東京2020大会
開会式
閉会式

1.ステークホルダーとの連携（イメージ）

大きな枠組み



2.フェスティバルの名称について

東京2020大会

オール
ジャパン

祝祭感



“東京2020 Nipponフェスティバル”

3. フェスティバルが目指す姿

参画

- 文化の祭典として、全ての人々が日本代表として参画でき、祝祭感のあふれるフェスティバルを目指します。

日本らしさ

- 脈々と続き、洗練されてきた私たちの文化を、オリンピック・パラリンピックの精神と共に様々な形で世界に示します。

卓越性

- オリンピック・パラリンピックならではの、前例にとられないプログラムを展開し、世界を驚かせます。

多様性

- 障がいの有無や人種の違いなど、それぞれの個性を認めた上で、分け隔てのない社会を目指します。

レガシー

- 新しいパートナーシップの誕生や若いアーティストの台頭、海外における日本のプレゼンス向上等、大会後のレガシーを創出します。

今後コンセプト（キャッチフレーズ等）を制作予定（例）Have Fun！

4.4つの物語①：聖火リレーとともに始まる祝祭感 - キックオフ -

文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック

聖火とともに祝祭感あふれるプログラムを
オールジャパンで展開
～都道府県とも連携し、全国で実施～



2020年、 私たちの文化で世界を驚かそう。



様々な背景を持つ人々が交じり合い 分け隔てのない社会を目指す



4.4つの物語④：誰もが参画できるフェスティバル

東京にいなくても オリンピック・パラリンピックに参画できる 全員が日本代表



5. フェスティバルのロゴマーク制作について

ロンドン2012大会では…



ロンドン大会のマーク

左2つ：エンブレム 右：フェスティバルロゴマーク

- エンブレムから派生したロンドン2012フェスティバルのマークを制作
- 組織委員会のほか、参画した多くの団体がマークを使用し、全国への拡がりをみせた

▶ 東京2020大会では、
フェスティバルの象徴となり、
全国へ拡がりのあるロゴマークを目指す

▶ エンブレムの制作者でもある
野老朝雄（ところあさお）氏に制作を依頼



6. 検討スケジュール

